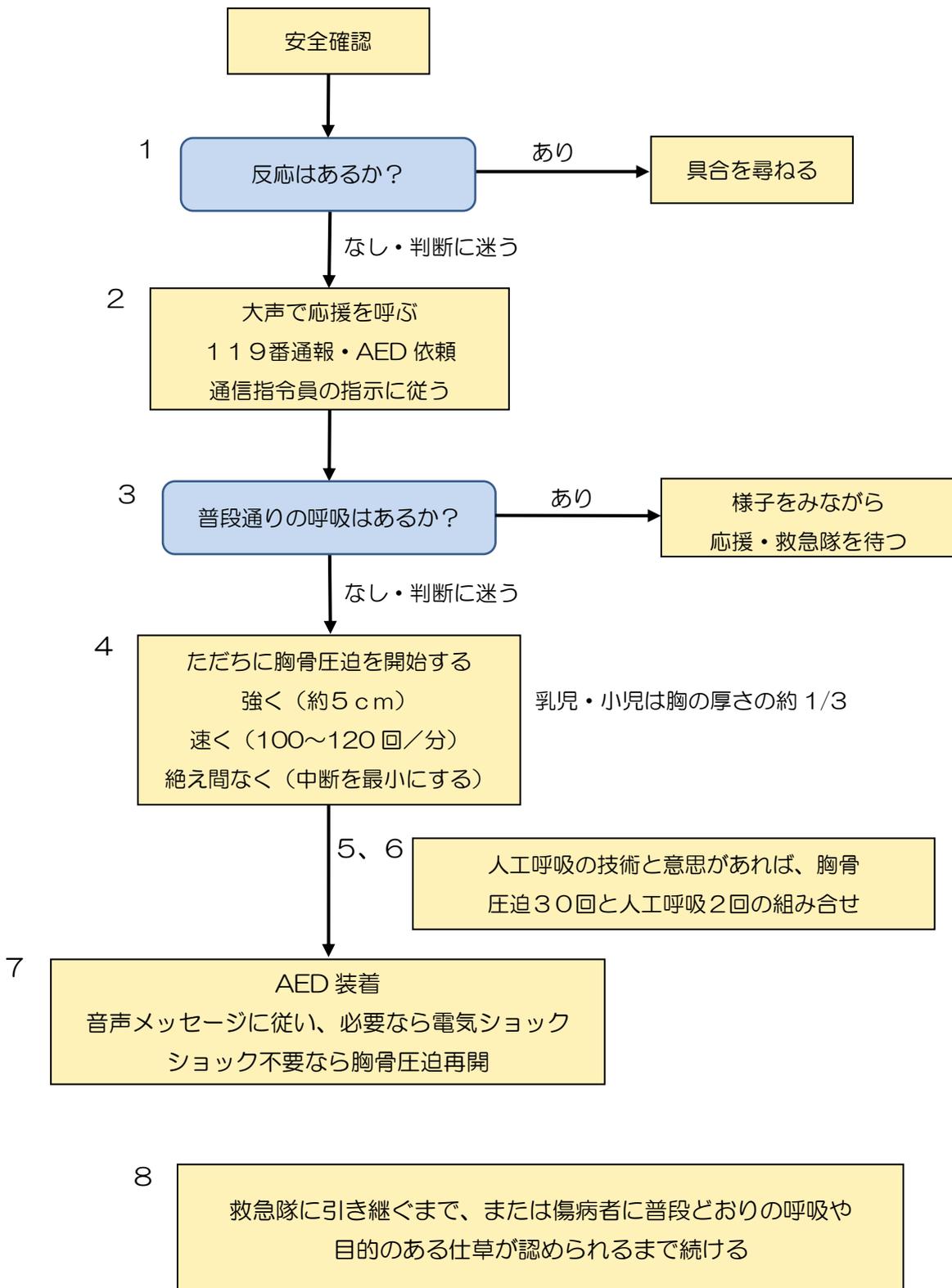


救命処置の流れ（心肺蘇生とAEDの使用）



救命処置の手順

1 反応（意識）を確認する

- ・傷病者に呼びかけと同時に肩を軽くたたきます。

ポイント

- ・呼びかけなどに対して目を開けるか、なんらかの返答又は目的のあるしぐさがなければ「反応なし」と判断します。
- ・けいれんのような全身がひきつるような動きは「反応なし」と判断します。
- ・反応があるかないかの判断に迷う場合、またはわからない場合も心停止の可能性を考えて行動します。



2 助けを呼ぶ

- ・大きな声で「誰か来てください！人が倒れています！」と応援を求め、協力者が駆け付けたら、「あなたは119番へ通報してください」「あなたはAEDを持ってきてください」と具体的に依頼します。

ポイント

- ・119番通報すると、通信指令員が行うべきことを指導してくれます。電話のスピーカー機能を活用すれば両手が使えるので、指導を受けながら胸骨圧迫などを行えます。
- ・協力者も誰もおらず、救助者が一人の場合には、次の手順に移る前に、まず自分で119番通報をしてください。そして、すぐ近くにAEDがあることがわかっている場合には、AEDを取りに行ってください。

3 呼吸の確認

- ・「普段どおりの呼吸」をしているか、10秒以内で確認します。
- ・胸や腹部が動かない、普段通りの呼吸が分からない場合は「呼吸なし」と判断します。
- ・反応はないが、「普段どおりの呼吸」がある場合は、様子を見ながら応援や救急隊の到着を待ちます。



ポイント

- ・心停止が起こった直後には、呼吸に伴う胸や腹の動きが普段どおりでない場合やしゃくりあげるような途切れ途切れに起きる呼吸がみられることがあります。この呼吸を「死戦期呼吸」といいます。「死戦期呼吸」は「普段どおりの呼吸」ではありません。

4 胸骨圧迫

- 呼吸がないと判断したら、ただちに胸骨圧迫を開始します。
- 胸骨圧迫によって心臓や脳に血液を送ることでAEDの効果を高めたり、脳の後遺症を少なくしたりすることが期待できます。
- 心停止でない傷病者に胸骨圧迫を行ったとしても、重大な障害が生じることはないと言われていしますので、ためらわずに胸骨圧迫をしてください。
- 胸の左右真ん中を、重ねた両手で「強く、速く、絶え間なく」圧迫します。
- 両肘をまっすぐに伸ばして手のひらの付け根の部分に体重をかけ、真上から垂直に傷病者の胸が約5cm沈むようにしっかり圧迫します。
- 1分間に100回から120回のテンポで、絶え間なく圧迫します。
- 圧迫と圧迫の間（圧力を緩めるとき）は、十分に力を抜き、胸が元の高さに戻るようにします。
- 小児には、両手又は体格に応じて片手で、胸の厚さの約3分の1が沈む程度に圧迫します。
- 乳児には、指2本で、胸の厚さの約3分の1が沈む程度に圧迫します。



ポイント

- 心肺蘇生を行っている間は、AEDの使用や人工呼吸を行うための時間以外は、胸骨圧迫をできるだけ中断せずに、絶え間なく続けることが大切です。
- 救助者が二人以上いて、交代可能な場合には、疲労により胸骨圧迫の質が低下しないよう、1～2分間程度を目安に交代するのがよいでしょう。

5 人工呼吸

(1) 気道確保（頭部後屈あご先挙上法）

- 傷病者ののどの奥を広げて空気を肺に通やすくします。
- 片手を額に当て、もう一方の手の人差し指と中指の2本をあご先（骨のある硬い部分）に当てて、頭を後ろにのけぞらせ（頭部後屈）、あご先を上げます。（あご先挙上）。



ポイント

- 指で下あごの柔らかい部分を強く圧迫すると気道が狭くなるので注意します。

(2) 人工呼吸（口対口人工呼吸）

- 気道を確保したまま、額に当てた手の親指と人差し指で傷病者の鼻をつまみます。
- 自分の口を大きく開けて傷病者の口を覆って密着させ、傷病者の胸が上がるのが見てわかる程度の量の息を約1秒間かけて吹き込みます。
- いったん口を離し、同じ要領でもう1回吹き込みます。



ポイント

- 2回の吹き込みで、いずれも胸が上がるのが目標ですが、もし、胸が上がらない場合でも、吹き込みは2回までとし、すぐに胸骨圧迫を再開します。
- 人工呼吸をしている間は胸骨圧迫が中断しますが、その中断時間は、10秒以上にならないようにします。
- 吹き込みを2回試みても胸が1回も上がらない状態が続く場合は、胸骨圧迫のみの心肺蘇生を行います。
- 傷病者の顔面や口から出血している場合や、口対口人工呼吸を行うことがためられる場合には、胸骨圧迫のみの心肺蘇生を行います。
- 感染防護具（一方弁付きの感染防止用シートあるいは人工呼吸用マスク）を持っていると役立ちます。

6 心肺蘇生（胸骨圧迫と人工呼吸）の継続

- 胸骨圧迫を30回連続して行った後に、人工呼吸を2回行います。
- この胸骨圧迫と人工呼吸の組合せ（30：2サイクル）を救急隊員と交代するまで絶え間なく続けます。

7 AEDの使用手順

(1) AEDを傷病者の頭の近くに置きます。

(2) AEDの電源を入れます。

- ケースを開けると、自動で電源が入るAEDもあります。
- 電源を入れたら、それ以降は音声メッセージ等の指示に従って操作します。



(3) 電極パッドを貼る。

- 傷病者の胸をはだけます。
- AEDのケースに入っている電極パッドを袋から取り出します。電極パッドを保護シートからはがし、電極パッドや袋に描かれているイラストに従って粘着面を傷病者の胸に直接貼り付けます。



ポイント

- 電極パッドは、胸の右上（鎖骨の下）及び胸の左下側（脇の下の5～8cm下、乳頭の斜め下）の位置に貼り付けます。（貼り付ける位置は電極パッドにイラストで表示されていますので、それに従ってください。）
- 電極パッドを貼り付ける際にも、可能であれば胸骨圧迫を継続してください。
- 電極パッドは、肌との間にすき間を作らないよう、しっかり密着させ貼り付けます。アクセサリや下着などの上から貼らないように注意します。
- AEDに小学生～大人用と未就学児用の2種類の電極パッドが入っている機種や、本体に未就学児用モードに切り替えるスイッチが付いている機種があります。その場合には、小学生以上（小学生を含む。）には、小学生～大人用の電極パッドを使用し、未就学児には未就学児用の電極パッドを使用してください。小学生以上には、未就学児用の電極パッド（未就学児用モード）は使用しないでください。

（4）心電図の解析

- 電極パッドを貼り付けると、「体から離れてください」などの音声メッセージが流れ、心電図の解析を始めます。このとき、AEDの操作者は「みなさん、離れて！」と注意を促し、誰も傷病者に触れていないことを確認します。
- AEDは、電気ショックを行う必要があると解析した場合には「ショックが必要です」必要がないと解析した場合には「ショックは不要です」などの音声メッセージを流します。
- 「ショックは不要です」といった音声メッセージの場合は、救助者は直ちに胸骨圧迫を再開します。

（5）電気ショック

- AEDが、電気ショックが必要と解析した場合は、「ショックが必要です」といった音声メッセージとともに自動的に充電を始めます。
- 充電が完了すると、「ショックボタンを押してください」といった電気ショックを促す音声メッセージが流れます。
- AEDの操作者は、「ショックを行います。みなさん、離れて！」と注意を促し、誰も傷病者に触れていないことを確認して、ショックボタンを押します。

ポイント

- AEDの操作者は、ショックボタンを押す際は、必ず自分も傷病者から離れ、誰も傷病者に触れていないことを確認します。
- 電気ショックによって、傷病者に強い電気が流れ、体が一瞬ビクッと突っ張ります。
- 電気ショックが必要と解析した場合に、ショックボタンを押さなくても自動的に電気ショックが行われる機種（オートショックAED）もあります。オートショックAEDでは、傷病者から離れるように音声メッセージが流れ、カウントダウンまたはブザーの後に自動的に電気が流れます。この場合も音声メッセージ等に従って傷病者から離れます。

(6) 心肺蘇生の再開

- ・電気ショックを行ったら、直ちに胸骨圧迫を再開します。

ポイント

- ・AEDを使用する場合でも、AEDによる心電図の解析や電気ショックなど、やむを得ない場合を除いて、胸骨圧迫の中断をできるだけ短くすることが大切です。



8 AEDの使用と心肺蘇生の継続

- ・AEDは2分おきに自動的に心電図解析を行います。音声メッセージに従って傷病者から手を離し、周りの人も傷病者から離れます。
- ・以降は、心肺蘇生とAEDの使用の手順を救急隊員と交代するまで繰り返します。

参考

心肺蘇生を中止するときは

① 救急隊員と交代したとき

救急隊が見えたらすぐに救命処置をやめるのではなく、心肺蘇生を中断することなく、救急隊員に交代するまで継続します。その後、救急隊員からの質問に答えます。

② 傷病者に普段どおりの呼吸が戻って呼びかけに反応したり、目的のあるしぐさが認められたときは心肺蘇生をいったん中止し、慎重に傷病者を観察しながら救急隊を待ちます。この場合でも、AEDの電極パッドははがさず、電源も入れたままにしておきます。

新型コロナウイルス感染症流行期の救命処置

- ・新型コロナウイルス感染症流行期においても基本的な救命処置の手順は変わりませんが、以下の点に注意をして救命処置を行います。
- ・感染を予防するため、自分がマスクを正しく着用していることを確認します。
- ・反応の確認及び普段どおりの呼吸があるかの確認の際は、自分の顔を傷病者の顔に近づけないようにします。
- ・傷病者がマスクを着用していれば、外さずそのまま胸骨圧迫を開始します。傷病者がマスクを着用していなければ、マスクやハンカチ、タオル、衣服などで傷病者の鼻と口を覆ってから胸骨圧迫を開始します。
- ・成人に対しては人工呼吸を行わず、胸骨圧迫のみを行います。
- ・乳児・小児に対しては人工呼吸の訓練を受けたことがあり、人工呼吸を行う意思がある場合に限り、人工呼吸と胸骨圧迫をどちらも行います。
- ・救急隊員への引継ぎ後は、速やかに石けんと流水で手指や顔を十分に洗います。
- ・傷病者に使用したマスクやハンカチなどは、直接触れないようにして廃棄します。



尾三消防本部

Bisan Fire Department

豊明市・日進市・みよし市・長久手市・東郷町

尾三消防本部

LINE 公式アカウント



尾三消防本部

ホームページ

